

夕鶴幻想（つうの回想）初演に寄せて

2001年に團伊玖磨先生は中国の蘇州で客死なさいました。その後、私たちは御子息を中心に團アーカイヴズを発足し、先生の業績を後世に伝えるべく活動を開始しました。

この『夕鶴幻想（つうの回想）』は、その團アーカイヴズと一緒に活動をしている仲間から、團先生のオペラをテーマにした短い作品を書いたらどうかと勧められた事がきっかけで生まれた作品です。

團先生に師事していた私は、そのご縁で先生の作曲した『夕鶴』『ちゃんちき』『スサノオ』の副指揮を務めさせていただいたことがありました。『夕鶴』公演では九州や沖縄にまでも行きましたが、ここ横浜での公演にも参加しました。オペラ『夕鶴』で副指揮は、本番一ヶ月前くらいから演出助手と二人で数回、公演地の少年少女合唱団を訪れて子どもの合唱指導もします。その時の横浜公演は、横浜少年少女合唱団でした。

この横浜少年少女合唱団は、上手かったということもですが、熱心に稽古に取り組み、私たちにも親しんでくれ、『夕鶴』で関わった数多くの少年少女合唱団の中でもっとも印象に残っているところの一つです。私は今でもメンバーの顔を思い浮かべることができほどですが、あれから17年の歳月を経て、今はもう結婚してお母さんになっている人もいることでしょう。

そんな思い出深い横浜の地で、今回、アンサンブル de ヨコハマと團先生とも縁の深い大和田葉子さんのフルート独奏で『夕鶴幻想（つうの回想）』を初演していただけることは、私にとって大きな喜びです。

今は天国にいらっしゃる團先生と、今もどこかで元気に暮らしている当時の横浜少年少女合唱団のメンバーと共にした『夕鶴』公演を回想しながら、私は今日の演奏を聴かせていただこうと思います。